

第二部 (1) 班 テーマ 「目的について」
メンバー (まりん、うめちゃん、えりい、なっちゃん、ドリー、デール、θ)

<p>現状①見たい姿→支援が出来ている。その上で目的の言葉選びをどうするか。(なっちゃん)</p> <p>賛成 a 似たような言葉ばかり使ってしまう。(ドリー)</p> <p>賛成 b 目的観のばらつきがある。(えりい)</p> <p>議題①目的の言葉選びについて</p> <p>主張 a 目的は抽象的、見たい姿は具体的 (θ)</p> <p>a 例示 抽象的：思いやり、具体的：優しい言葉 (まりん)</p> <p>主張 b プランナーは子供の成長段階に合わせる。抽象的な目的は子どもたちに考えさせ、具体的な目的は最初の段階で達成目標を明確化させる。(なっちゃん)</p> <p>主張 c 場面の具体化→活動の詳細 (ドリー)</p> <p>主張 d ホールはいろんな子どもがいるから抽象的、単発はポンポン言葉を出して突き詰めていく (えりい)</p> <p>例示 d 「ありがとう」→言葉に縛られてしまう (えりい)</p> <p>議題②抽象的 or 具体的</p> <p>主張 a 意見が割れたときに目的に沿ったものを選ぶ→抽象的だと難しい。(うめちゃん)</p> <p>主張 b 目的よりも見たい姿をはっきりさせる。目的の言葉にこだわったことはない。(まりん)</p> <p>賛成 b 見たい姿とじっくりくる言葉を選ぶ必要がある？自分に持ち帰ると忘れてしまう。(うめちゃん)</p>	<p>現状②ホールや単発では見たい姿・目的は前にやったことがあるのは省く。これは良いか。(えりい)</p> <p>主張 a 根底は子どもが楽しんでいること(うめちゃん)</p> <p>主張 b それぞれの班で目的の立ち位置が違う。(えりい)</p> <p>議題③目的を見失わない方法</p> <p>主張 a 共有ノートが大事。流れが分かる (ドリー)</p> <p>主張 b ことばが簡単だとブレない。(えりい)</p> <p>賛成 b キャッチーな言葉は印象に残る (まりん)</p> <p>まとめ③目的を忘れないためのキーワードを設定し、目的を決める過程を重視する。(デール)</p> <p>議題④目的、見たい姿、活動内容の決める順番について</p> <p>主張 a 活動のイメージを持ちながら目的決めしている。(ドリー)</p> <p>主張 b 支援によって見れる姿であってほしい。(まりん)</p> <p>主張 c その後の話し合いに活かれば良いので、形に囚われなくても良いのではないか。(デール)</p> <p>賛成 c いろんな決め方→多様な視点 (θ)</p> <p>主張 d 実際教員になったら活動→目的→見たい姿(えりい)</p> <p>主張 e 子ども理解のために単発は目的から決めるのでは？ (ドリー)</p>
---	--

<p><議題：見たい姿をどういう気持ちで考えるのか></p> <p>現状・主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな活動を想像しながらだす。(モカ、ぴよ) ・支援がしやすいものか、本当に自分が見たいものか、教育的なものか、どれを言うべきか迷う。(ユキン) ・目的とは行動・活動をする原点・動機である。そのため、当たり前を目的にすべきではない。目的は活動の先にあるものである。(オレゴン) ・目的を考えた上で活動を考える。(ぴよ、らあや、しいちゃん) ・ありきたりなものが多いが、珍しいものは難しそうでなかなかならない。(ぴよ) ・目的は活動を作るうえで必要となってくる共通認識をはかるためのもの。見たい姿はこういう風になってほしいというイメージ。(らあや、しいちゃん) ・見たい姿は子どもに今後身に着けてほしいと思う姿であるため、子どものために考えるもの。「学生が見たい」だけとは違う。(しいちゃん) ・前回達成できなかったこと、想像と実際のこどものギャップから生じたものを考える。しかし、対象学年の事を考慮し、見たい姿を変えることがあるため本当に見たい姿ではなく、見られる姿に制限されている気がする。(オラフ) <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの順番で考えると考えやすいのか。(対象学年、目的等) ・学生の偏見・エゴで決めていないか。 <p>例示 (ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間目標→ざっくりとした活動概要→見たい姿、目的の詳細の順で考える <p>例示 (単発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たい姿→目的→活動の順だが、活動がわからないため見たい姿が抽象的になりやすい。 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的とは細かい支援を決めるための共通認識である。そのもととなる見たい姿をスムーズに考えるためには、大まかな活動内容を考え、見たい姿を出し、目的に移るとよりスムーズである。 <p><議題：具体的にしすぎると目的達成できない子も出てくるが、抽象的にすべきなのか></p> <p>主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的にすることは良いが、イメージを具体的に出し、共有しておく必要がある。(しいちゃん、モカ) ・具体的にするとすべての支援が目的に向かう一方で様々な子どもの姿や自由な姿を認めないのではなかろうか。(らあや、ぴよ、ユキン) ・抽象的にすると支援に幅を持たせられたり、様々な子どもたちの姿を認められたりする一方で忘れやすくなるため話し合いに出すべきである。(らあや、ぴよ、ユキン) ・抽象的なものを達成するためのガイド役が具体的なものであると思う。(オレゴン) ・具体的なものの場合、目に見えなかった部分(抽象的な部分)が認められないのでは。(オレゴン) ・抽象的なものの場合、見たい点を絞るべき。(オラフ、モカ) <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託麻のように具体的な目的を場面に分けていくつか設ける。(お買い物、調理、ピザ屋という風に) ・抽象的な言葉から発展した先に活動があると思うため、どのような経緯で抽象的な言葉が活動につながったか振り返りやすいように着目すべき場所を限る。
---	--

第二部 (3) 班 テーマ 「目的について」
メンバー (のんちゃん ぐりちゃん ばりい げんき べっかむ ちゃい)

<p>現状 1 目的決めをするときに決まった手順などはないが、理想的な目標の決め方があれば知りたい。(のんちゃん)</p> <p>意見 1 a 班によると思う。プランナーのときは目的から決め、単発の時は活動から見られる姿を考えて、目的を決めた。活動から決めると目的が後付けのように見えることもある。 また、目的とは別に核となる年間目標があるといいと思った。それがあると活動のステップアップにつながる。「理想」をはっきりさせるのは難しい。納得のいく目的決めができることが大切。目的によって支援も大きく変わる。(ちゃい)</p> <p>意見 1b ホールは活動から決めている。活動から決めると目的が活動に縛られてしまうので、そのときは活動に縛られない目的決めをしたいと思う。目的はなぜ決めるのかを徳時時間をかけて話し合う機会があつていいと思う。(げんき)</p> <p>→意見 1 b について 活動から決めると目的と見たい姿がごちゃごちゃになることもある。(ちゃい)</p> <p>まとめ 一度班での話し合いの中で目的から決めるか活動から決めるかを話し合った。今回の話し合いで班や活動によって柔軟に決め方を変えてもいいと思った。ときどき目的の決め方を初歩に立ち返って考える時間をとってもいいと思う。</p> <p>現状 2 目的の言葉尻を決めるのに時間がかかってしまうことがある。目的決めの際に話したことが最も重要で、見たい姿などがきちんと共有できていれば目的の言葉の細かい部分にこだわらなくても活動は可能なのではないか。(べっかむ)</p> <p>主張 2 a 支援などがうまく決まらないとき、見たい姿などにしっかりと立ち返ることができればいいと思うが、目的が言葉として明確でない活動はやったことがない。(げんき)</p> <p>主張 2 b 経験上ちゃんと目的があつたほうがよかった。目的と見たい姿がごちゃごちゃになったことは今まであまりなかった。 見たい姿は活動のいつの段階でみられる姿なのかが判然としない。目的を立てれば最終的に目指すところがはっきりする。目的をしっかり立て、見たい姿をみんなで共有するのが</p>	<p>良いと思う。(ばりい)</p> <p>→賛成 2 a ほぼ同じ意見。目的があつたほうが支援がやりやすい。(ぐりちゃん)</p> <p>→賛成 2 b 見たい姿 がそれぞれの活動の一環の流れに重要なものとしてあるという意見に賛成。見たい姿を統合した結果が目的になる場合がある。その場合においては絶対に目的は必要。見たい姿があれば活動はうまく流れていくのではないかという意見は気になる。調理などは危険予測さえしっかりしていれば活動は楽しいものになるが、それでいいのかというそうではないと思う。 教育学部としてかかわり、公民館と連帯している以上は研究結果として何らかの成果を残さなければならない。目的がないとそれは難しいのではないか。目的は、子どものどのような能力を育てるのかを考えるときに役に立つ。だからあつたほうがよい。目的があると振り返りなどがしっかりできる。一方で、やってみてもいいのではないかとも思う。(ちゃい)</p> <p>まとめ 目的は活動をよりよい実りあるものにするためにもあつたほうがよいのではないかという意見と、目的がはっきりしなくても活動がうまくいく場合もあるのではないかという意見があつた。それに加えて、試しにやってみるのもいいのではないかという意見もあつた。</p> <p>現状 3 目的がたまに支援や手段になつてしまっていることがある。 例) 他学年と交流しよう という目的の場合、他学年と交流するのはそれを通して子ども自身が自分の良さに気づくための手段であり、目的ではない。 この例のように、手段が目的として出てきてしまう例は珍しいと思うので、そのようなときどう考えるか。(ちゃい)</p> <p>主張 3 a 関わるのが目的だと関わっただけで終わってしまう。そこから何を不得ほしいかまでを考えるべきだった。逆に言えば目的、見たい姿から手段を考えられるということになる。(ちゃい)</p> <p>手段のようになってしまうことはあつた。目的はめあてとはちがひ、子どもに提示はしない。(べっかむ)</p> <p>主張 3 b 話し合いの段階で目的か手段かということを見直すべき。プ</p>
---	--

<p>ランナーは年間を通してやるので目標を早期達成してしまった場合などは目的を見直すことがあるが、単発やホールはどうなのか聞きたい。(ちゃい)</p> <p>→意見3 b</p> <p>単発は1週間前などになると目的の見直しは不可能。支援を決める段階で目的のおかしな点には気づかなければならない。そうでないと活動の主軸が定まらない。プレなどで目的を振り返る時間があるのでその時間を大切にしたい。(ばりい)</p> <p>まとめ</p> <p>活動の流れ自体を大切にしがちだが、班内で目的も含めてどのような活動にしようと思うかを発表する機会があつていいと思うという意見もあった。目的のおかしな点は班での話し合いの中で気づき、見直すべき。</p> <p>現状4</p> <p>協力が最終的な目的として挙がることもある。協力は協力によって何かをなすための手段だと思いがちだが、協力っていいなと思えるようになるための活動なら、言葉が協力で終わっても構わないと思う。このあたりの言葉の在り方についてどう思うか。(ばりい)</p> <p>→意見4 a</p> <p>協力はいつも大切。協力っていいなと思ってもらい、これからも人と協力することを促す活動ならば、協力が最終目標でも構わないとおもう。</p> <p>協力することで協力を大切にしてほしいというニュアンスが協力を目標にするときの意図に含まれている。考え方的には協力することによって達成感を味わってほしいというのと変わらないのではないか。</p> <p>学生間でどこまで認識しておくかが大切。協力に関しては協力させるだけでなく協力してよかったと思えるシーンを作るべき。それにより支援も変わると思う。(ちゃい)</p> <p>主張4</p> <p>プランナーはその子にあってから目的を考えさせるが、その日初めて会うこどもと活動する単発班にはそれができない。目的をすでに子供が達成してしまっていた場合なども考えられる。協力についての例以外でも言葉になっている部分を手段と考えるかそれを通してみたい姿があるかと考えるかわかれる。大事なことは言葉自体よりも学生間で考えを共有していることだと思う。(べっかむ)</p> <p>→意見4 a</p> <p>活動内でどこまでやるかによるけれど、子どもたちの生活は活動後も続くので何か活動で得たものが生かされる。</p>	<p>→意見4 b</p> <p>協力して一つのものを作ろうという目標の時、協力がまずできなかったことがあった。協力が目的でもいいのではないかなと思う。班によってもまた異なるのではないかな。(ぐりちゃん)</p> <p>→意見4 c</p> <p>学年によって課題が異なる。そのような基本的なところにも立ち返ってみるべき。実習の時はめあての言葉尻だけでも10通り考えるように言われた。言葉の微妙なニュアンスも含めてたいせつにすべき。(ちゃい)</p> <p>→意見4 cについて</p> <p>言葉尻を決めるとき、班の人がそれぞれの意見の正しいと思える部分を主張し合って決めたのでいい目的ができた。言葉にこだわった結果質のいい目的決めができることもある。(ばりい)</p> <p>まとめ4</p> <p>目的にも手段にもなりうるものについては班の特性や子供の現状によって目的のニュアンスなどが微妙に異なることがあり、それでいいと思うという意見が出た。言葉尻にまでこだわることで、よりはっきりした質のいい目的ができ、支援のしやすさにもかかわるという意見もあった。言葉尻にこだわらなくてもいいかもしれないという意見もあったが、いずれの場合も学生間で考えを共有しておくことが重要だという点ではみな同じだった。</p> <p>現状5</p> <p>単発には目当てのなじみがないと思うが、単発にも目当てはあったほうが良いのか。(のんちゃん)</p> <p>→意見5 a</p> <p>子どもに見える形で提示したいことがあるならば会ってもよい。(べっかむ)</p> <p>→意見5b</p> <p>活動による。小目標のようなものが活動内で子供に見える形で提示されるのもいいと思う。授業の最初五分くらい時間を使って子供自身が授業の目当てを考える授業を経験した。子どもが目当てを考えるのは大切だと思う。目標がしっかりしているから小目標がたてられるのだとおもう。すると支援もそれに準じたものになっていいと思う。それが単発におけるめあてとなるもので、活動によってあってもなくてもいいと思う。(ちゃい)</p> <p>まとめ5</p> <p>めあてがあると活動がよくなる場合は単発にも目当てがあつていいのではないかなという意見が出た。</p>
---	--

第二部 (4) 班 テーマ 「話し合いの形式・頻度について」
メンバー (ゆみやん、ぼむ、シャルル、ベル、かみゅー、じゅん、まっしゅ)

<p>各班の今の話し合いの形式・頻度について</p> <p>・頻度 平日昼休み、定例会、休日 2 時間 (主にプランナー班)</p> <p>・形式 小グループに分かれて、意見を出し合って合致</p> <p>現状 話し合いの形式が固定されている</p> <p>主張 もっと「みんな」のできる話し合いの形式ってどんなのだろう？</p> <p>例示 (ゆみやん) もしかしたら立場によってやりやすい話し合いの仕方が違うのかもしれない 三役しているときは、小グループの意見をそれぞれ聞いて、それをまとめる為の「三役のまとめ待ち時間」のようなものがあってそれはやりにくかったけど、班員からしてみれば、小グループのほうが意見を言いやすいのかもしれない</p> <p>賛成 (シャルル) 同じ経験 (三役の待ち時間) あります！ 正直、三役しているときは議題を出したら自由に話し合っただけで欲しいと思うことが多々あった (じゅん) もっと意見出して、まとめる以外の話し合いの方法ってないんですかね？ (ゆみやん) 全フレ行ったとき、黒板をつかう・付箋に見たい姿とかを書いて、それを出し合って種類ごとに分別・ワークシートを使うとか、色んな方法を他大学は行ってた 私たちも型にとらわれずに色んな方法を行っていてもいいんじゃないかな (じゅん) 付箋とかだと、視覚化されてわかりやすいし、取りこぼしも減りそうですね</p> <p>まとめ 今の話し合いの形式にとらわれず、色んな話し合いの方法 (付箋、ワークシート) を取り入れてみよう！ (司会) 1 年生 (マッシュ) から見て、どう思う？ (まっしゅ) まだ経験も少ないから、自分の意見に同意があったら安心する。話し合いで持ち帰りがあって、次の日三役さんが提示してきた内容に自分の意見が含まれてなかったら、「ダメ」だったんだなと思うやう</p>	<p>(みんな) 分かるわ～</p> <p>主張 時間の関係上、すべてを話し合いの時間でみんなで決めることは難しい。しかし、みんなが納得・参加できる方法は考えられるか？</p> <p>例示 (じゅん) 今の自分の班の三役さんは、意見を持ち帰って翌日たたき台を提示するとき、そのたたき台を提示するまでの経緯をちゃんと伝えてくれる。まっしゅが言っていた「ダメ」っていうのは、理由が分からないから勝手にダメだったんだなと思っちゃうだけで、三役さんからしたらちゃんと理由があったり、その主張の中でもここだけは入れてくれているっていうのが分かることがたくさんある。どうしてそうだったかを伝える・伝えてもらうっていうのは大事。 (シャルル) 三役しているときに思ったのは、三役ばかりで悩むんじゃなくて、悩んでいることを言葉にすることが大切だと思った。言葉にしたなら、解決策をみんなで考えていけるし、それこそ多様な考えで解決に持っていける</p> <p>まとめ ・どうしてそうだったか、を伝えていく ・分からなくなったら、何に迷っているのかを伝え、みんなで解決していく</p> <p>現状・主張 (べる) 話し合いが切羽詰まったりすると対立意見を言いづらくなる</p> <p>賛成 (ぼむ) 今回の意見言ったら、時間かかっちゃうなって思うときあるよね (シャルル) 対立意見って視野広がるし、活動も深まるから大事だと思うけど、どうしても時間とか雰囲気の問題ありますよね (ゆみやん) 対立意見はただ感情的にいうのは違うと思うけど、お互いにより良い活動にしようとして言ってるなら素敵だと思う。時間の問題は正直どうしようもないのかな～。そこで話し合いの計画がずれたとしても、その話し合いは充分意義のあるものだし、そういう時こそみんな協力していくことが大切なんじゃないかな</p> <p>まとめ ・対立意見は話し合いが深まるから大切 (しかし、感情的に意見を押し付けるのは×) ・時間を怖がって、せっかくの話し合いの場をなあなあにおわらせてしまったらそれこそ時間の無駄。計画からずれてしまった時間はみんなを取り戻そう！</p>
--	---

<p>現状① みんなが納得する決め方がわからない (せん)</p> <p>① 理由 その日の話し合いを休んでいる人が多くいて 人数が少ないと決め手に欠けたり、多いと意見が 散らばったりする (せん)</p> <p>① 例示① 一気に決めるのは大変なので小グループで 話し合い、全体ですり合わせる (ゆに)</p> <p>① 例示② 目的など活動の重要な部分は全員で決め る (かんだ)</p> <p>① 例示③ 話し合いの中でなかなか意見を出せてい ない人には積極的にあてて班員みんなの意見を 聞く (あ～まん)</p> <p>① 例示④ まずは、折衷案を考える。そしてそれぞれ の意見のメリット・デメリットを挙げてどのメリ ットを取り込んでどのデメリットを打ち消すか 考える。デメリットをできるだけ改善できる意見 を選ぶ (ゆに) (かんだ)</p> <p>① まとめ 班にも個性があるのでいろいろ試して班 に合う方法を見出す (がく)</p> <p>現状② 話し合いが班員全員で行われるが人数が多い と決めごとが決まりにくいこともあるのになぜ 多くの人数で話すのか疑問に思う (かんだ)</p> <p>② 理由① みんなで活動するから活動の内容把握のた めにもみんなで話し合う (ゆに)</p> <p>② 理由② 自分の思いつかない意見や多くの意見を 聞くことができる (がく)</p>	<p>現状③ 班全体で話す内容はどこまで? (ぐっぴー)</p> <p>③ 主張 活動の主軸となる目的やみたい姿ももちろ んだが活動すべて決めるべき (ゆに)</p> <p>③ 賛成① 似ている意見をまとめるなど話し合いを円 滑に進める手助けをするのは三役 (東)</p> <p>③ 賛成② 三役は次の話し合いで話すことを決めた り、意見が出ないときに例を出したりしてみんな の道しるべになってあげる (ゆに)</p> <p>③ 賛成③ 話 0 から意見を出すのは大変だから三役 が 1 を作っていると意見も出しやすい (かんだ)</p> <p>②③ まとめ 活動するのは班みんななので全員で話 し合う必要もあるし、みんなで話し合うことで活 動の内容理解にもつながり、多くの意見を聞くこ ともできる。そのような話し合いの中で目的・み たい姿など活動の軸になる部分は必ず全員で。あ る程度の例や方向性を示すのは三役で (がく)</p>
---	--

第二部 (6) 班 テーマ 「単発特有の問題について」
メンバー (わかちゃん、まぶし、まつじゅん、タルト、よね、ケイミー)

<p>議題① 単発の活動において、「目的」がある意味 (ケイミー)</p> <p>現状①a 目的によく時間をかけている (ケイミー)</p> <p>主張①a 支援を考える上での大きな軸。土台となる部分。次に生かすためにも、みんなが同じ認識を持つようにしなければならない。(わかちゃん)</p> <p>賛成①a 目的の言葉に意味を持たせすぎて、抽象的に。よく分からなくなる。わかりやすく簡潔に。(よね)</p> <p>賛成①b 支援がある理由が「目的」。立ち返るべき場所。(まぶし)</p> <p>例示① 他班募集の際、その班の目的に至った経緯などを知らない。→他班にも活動に参加してもらうのなら、他班にも目的に至った経緯やその言葉が含む意味を伝える必要がある。共通認識。(まぶし)</p> <p>現状①b 仕方なくではあると思うが、活動から決めて、目的が後付けになってしまう活動もある。(まぶし)</p> <p>反対① 活動から決める場合、目的がないので、活動に関しての決め手がない。また、視野も狭まってしまう。そう考えると、目的を先に立てることは、単発だからこそ大事なのでは。(わかちゃん)</p> <p>主張①b 目的が曖昧だと活動とかの決め手にも関わるから、話し合いは、目的について時間をかけていいと思う。実際、IOEの方も、見たい姿から順に企画している。(まつじゅん)</p> <p>まとめ① 単発において、活動に関する「目的」はとても大きな意味をもつため、わかりやすくシンプルに</p>	<p>することが大事である。目的は、深めれる分は深めた方が、班での認知度にもつながる。話し合いの段階での共有も大事である。</p> <p>議題② 半期4回(重複有)の活動はどうか(よね)</p> <p>賛成②a 同じ活動を二回することで、一回目の反省が直に活きる(よね)</p> <p>主張② 公民館としてはどうなのか…→可能だったとして有なのかどうか(よね)</p> <p>例示② 横国では年6回の活動があり、必ず一回は同じ活動をする。福井は来年度から実施の予定。全フレより。実際に実施している所もある。(まつじゅん)</p> <p>反対② 子どもたちとしては、新しいことをしたいのでは…その活動に二回とも参加した子にとっては「この前と同じじゃん」となったりするし、同じ活動に二回行こうと思うのか…?(わかちゃん)</p> <p>賛成②b おもしろそう。やってみたい。(よね)</p> <p>議題③ 活動において、導入を重視しすぎているのでは?(わかちゃん)</p> <p>反対③a 導入はそんなに凝らなくてもいいと思う(タルト)</p> <p>反対③b 導入がなかったら活動が成り立たないのはどうなのか。前は2, 3日前に決めて、活動のつかみだけとって…の感じだったのだが、今はどうなのか。(わかちゃん)</p> <p>反対③c 導入はあくまで支援の一つなのでは? 活動を牛耳っている訳ではないと思う。世界観をつくるた</p>
--	---

めの支援の一つ。極端に言えば、物品がなくても、演技だけでもいい。(よね)

賛成③a おざなりにしていいものではない。導入の人にポイするのは問題。イベント系(クリスマスなど)は特に力が入る。(まぶし)

賛成③b 世界観に力をいれていい。そっちの方が子ども達は楽しい。表情だって変わってくる。(まつじゅん)

主張③a 企画班を工夫して分ける。目的に沿って導入をつくれればいいから、きちんと目的・見たい姿から考えることが大事。ある程度共通認識をしておけば、あとは導入班として独立させていいのかも。(まつじゅん)

主張③b 導入は活動内容に沿う形なのに、導入が(「こうしたい」がために、活動自体を変えるのは問題では？(わかちゃん)

反対③d 目的を包む形で導入が存在するのに、導入が目的を邪魔するのは問題。→一人だけで決めさせると暴走する。はじめてから一人ではなく、世界観だけでもみんなで共通認識して、きちんと共有する必要がある。(よね)

まとめ③ 導入の負担が最近特に重くなりがち。→配慮が必要。導入の主要メンバーは自班でまかなう。企画が決まった中で決めた導入の小さいずれは、後に大きなずれとなる。最初はおおまかな流れから考えるといい。なにより、導入を決めるに当たっても、活動の目的がしっかりすることが大事になってくる。

第二部 (7) 班 テーマ 「単発特有の問題について」
メンバー (ノワール ぽぽ ミリオン ニック スーザン よっちゃん ぽんちゃん)

<p>プランナー・ホール班から見た単発班のイメージ</p> <p>・準備期間が長い→話し合いの頻度・進め方がイメージ しにくい</p> <p>・活動やT T、物品の充実さ (よっちゃん)</p> <p>↓</p> <p>各班の話し合い・進め方の違い</p> <p>中央班：目的に時間をかける (ニック)</p> <p>理由 活動の核となるもの → 全員で共通認識する</p> <p>託麻班：物品、危機管理 (ぽぽ)</p> <p>前回の活動の反省を生かすものが多い</p> <p>【例】 はじおか</p> <p>大江班：子どもへの支援 (スーザン)</p> <p>【例】 意見が食い違った場合の支援など</p> <p>単発全体として (ぽんちゃん)</p> <p>慎重な話し合い</p> <p>活動が目的に沿っているのかを吟味する</p> <p>現状① 目的を中心に考える</p> <p>主張① ホールは活動を決めて目的を考える。 (よっちゃん)</p> <p>主張① 託麻で活動から目的を考えてみた。 → 結局目的に立ち返って活動を決める (ミリオン)</p> <p>主張① 目的を考える中で、活動のイメージを固める (ぽぽ)</p> <p>まとめ① ゼロから長い期間をかけて活動を作っていく単発班にとって、目的は活動の芯となるもの。そのため、目的を中心に考えることは当然である。</p> <p>現状② 話し合いの期間が長い</p> <p>主張② 話し合いの見通しが立てづらいのでは？ (よっちゃん)</p> <p>主張② 余裕がないとき → 3 役が決めることが多い 余裕があるとき → 最後まで内容を詰める (ニック)</p> <p>疑問② 話し合いの段階でどこで見切りをつけるのか？ (よっちゃん)</p> <p>補足：ホールは無理やりにでも折衷案にもっていく</p>	<p>答え② 班長・3 役がだいたいの目安を決める (ぽぽ・ノワール)</p> <p>まとめ② 班長の裁量によって異なる。前半にささっと決めて物品を作る班もあれば、子どもへの支援を最後まで考える班もある。</p> <p>現状③ 3 役への負担が大きい？背負いすぎ？ (よっちゃん)</p> <p>主張③ 班員は見通しがわかんないから不安 (ミリオン)</p> <p>主張③ 3 役の意見も聞きたい (ぽぽ)</p> <p>↓</p> <p>3 役内での共有と班員との共有の差</p> <p>対策③ 全体で話し合いの見通しを共有する (よっちゃん・ノワール)</p> <p>具体策③：3 役会 LIVE 中継 (よっちゃん)</p> <p>理由③ 3 役が何をしているのかを把握できる</p> <p>具体策③：到達度シート (よっちゃん)</p> <p>内容③ 話し合いで目的、見たい姿などで大まかに区切り、各段階をクリアしていくごとに何かしらのイベントを開催する。</p> <p>理由③ どこまで進んだのかわかる。 班の仲が良くなる。</p> <p>主張③ 3 役ももっと班員を頼ってほしい (ぽぽ)</p> <p>まとめ③</p> <p>・3 役と班員との差をフラットにする →情報共有が大切</p> <p>・パシュートの理論</p> <p>3 役は先頭に立ち、いろんな困難に当たっていく。その中で後ろにいる班員がそれを支えることが大切であり、お互いに対する思いやりが必要になる。</p>
--	--

<p><① プランナーと学生との距離></p> <p>①理由 a 自分の場合、友達として接しているわけではないが先生と生徒の関係ではない。他の学生はどのように接しているのか知りたい。(なる)</p> <p>①理由 b 1 年間継続してプランナーというリーダーを育てていく中で、結構厳しくしないといけないのかなあと思っていたが、最後の方では友達感覚でもあった。どの程度距離を置けばいいのか、どの程度仲良くなっているのか聞きたい。(ぬっぴー)</p> <p>①主張 a 友達のように接した感覚はないが、活動中に本名で呼ばれたりしたこともあり、プランナーからは友達のように見られていたかもしれない。しっかりしていた子は学生という目線で見ていたと思う。先生というよりも学生、ちょっと大人というかお兄さんの認識でいた。(ちはや)</p> <p>①主張 b 仲良くなるが友達というわけではない。友達までなってしまうと、指示を出すとき少し違う感じになるため、先生のようながちがちの上下関係はないが友達のようなノリでもない関係を目指しているが友達寄りになってしまっている。もう少し威厳を出すべき。(りこ)</p> <p>①主張 c 親戚のおじさん、兄弟の子供・姪っ子・甥っ子を扱う感じ。(ガンディー)</p> <p>①主張 d 友達以上先生未満、友達の場合教えなくてはいけないこと、注意しなくてはいけないことをできないから威厳は保つべき、なめられたらいけない、注意されたら納得する関係。フレンドリーな小学校低学年の先生な感じ。親戚のおじさんはあり。(おーちゃん)</p> <p>①主張 e 話聞いて親戚のおじさんなのかなあと思ってた。話し合いしてたり、活動してるときは目的とかめあてもあり、支援をしたり指示を通さなくてはならな</p>	<p>いのでそこはしっかり通らなくてはいけないけど休み時間やプランナーが終わったら友達でもいいと思う。実際は友達としか見られていないと思う。大学生として見られていると思うので今のところ大丈夫だと思う。(なる)</p> <p>4 年生だったから僕が喋るときは「ボスが喋る」みたいに聞いてくれたイメージ。今年はやりやすくてできるだけ仲良くしていた。仲良くないと話してくれないし、一線を保たないと言うことを聞いてくれない。叱れるところがしっかりできればどれだけ仲良くなってもいいと思う。学生間で仲良くする学生、叱る学生という風に打ち合わせてもいい。(まっしあん)</p> <p>①疑問 どういうときにプランナーに厳しく言った経験があるか?(ぬっぴー)</p> <p>①例示 a 冬活動のプレの時にふざけてテンションが高くなっていて、練習もまともに出来ていないときがあり、どうしようもなかったから怒った。本番ではしっかりやってくれた。(おーちゃん)</p> <p>①例示 b プランナーが学生に「デブ、死ね」危険ことや人をないがしろにする発言や叩いたりしたときには言う必要がある。あと何回言ってもやめないときにも違う支援をする。(まっしあん)</p> <p>①例示 c プランナーの口が悪くすぎて話しあった。その時には子どもたちの将来に関わることはメイフレでも教えるべきという話になって注意するようになった。(おーちゃん)</p> <p>①例示 d プランナー合宿の際、他の子を 2 回泣かせた子に対して公民館の先生が呼び出して正座させて怒鳴ったことがあった。怒り方も難しい、次の活動のモチベーションを下げたくない。(ぬっぴー)</p> <p>①例示 e 外部依頼でプランナー活動をした際、一回きりの活動で注意すると仲が悪くなるかもしれないと</p>
---	---

<p>思っ注意できなかつたが、プランナーが危険なことをしていたため怒ったら、それから逆についてくるようになった。真剣に怒ったら分かってくれる子は分かってくれる。(おーちゃん)</p> <p>①まとめ プランナーと信頼関係を築くうえで仲良くなることも必要だが一線を保って注意や指示がしっかり通る関係を築くべき</p> <p><② プランナーの活動頻度></p> <p>②現状 プランナー活動が多すぎて支援までなかなか考えられない、逆に会議の回数は現在の3回では足りないのではないか(ちはや)</p> <p>②案 活動を年2回にして1回目の活動を会議3回、2回目の活動を会議5回にする、デメリットとしてはプランナーの成長を学生が見づらくなる。(ちはや)</p> <p>②主張 a 会議は多くしたい、活動は3回がいい。年間目標を立てて、支援を考えるうえでそれが達成できたか見る場が欲しい。1回目の活動は慣れる、2回目は本格的にやってみる、3回目に反省を生かすという意味で3回の活動に大きな意味がある、そのうえで会議を増やすのは難しい、プレの形を変えるのはあり。(まっしあん)</p> <p>②主張 b 活動は3回、1年間の成長がしっかり見れる、ただ会議3回では足りない。新しい班で方針として話し合う。(なる)</p> <p>②主張 c 活動は3回の方がプランナーの成長は見れる、会議も大事だと思ってプレの前にやったりもした。理想は会議を増やしたいが3回でも支援をかんがえることが不十分。(おーちゃん)</p> <p>②主張 d 3回の活動で段階を踏んでいくという意見になるほどと思った。年間目標次第、今年の東部プランナーでは年間目標ではないものの「自由」を支援の一環としてきた、だから会議でプランナーに内容について考えてもらった。会議の回数を増やしてもおそらく足りない。(ガンディー)</p>	<p>②主張 e 活動の時にはプランナーを見守っているほうがいいと思っていたが、終わってみるともう少し介入の方がよかったと思う。活動2回では子どもたちだけで活動を作るとするのは難しい。会議の時間は足りないように感じるので、学生の支援で会議が充実するようにしていく。(りこ)</p> <p>②主張 f 2回がダメとは思わないが3回が普通。プランナーの仲の良さが必要、その仲良くなる時間を削って、午前2時間会議、昼食の時にプランナー間で仲良くなって午後からもう1時間会議するという形もあるのではないかな。会議が1週間おきになってしまうこともあったので2週間は空けたい(ぬっぴー)</p> <p>②まとめ 活動は3回ある方がいい、そのため会議を増やすことも難しい。話し合いの中で支援等を十分に考えて一回一回の会議の質を上げていくべき</p> <p><③-1,2 年間目標></p> <p>③-1 理由 「これっ」というプランナーの年間目標が見つからない(まっしあん)</p> <p>③-2 理由 まだ会ったことのない子供たちに対して年間目標を立てて1年間子どもたちを見ていく中で別の目標の方がその子たちにはあっているのではないかと思ったとき、見直しの時間を取りたいが普段の話し合いは活動のことでいっぱい、話し合いの中でも年間目標を重視する傾向にあるがどうなのか(りこ)</p> <p>③-1 主張 a 話すこと聞くことを身につけさせることを重視する意見の出た年もあったがスキルを身につけるためにプランナーに来ているわけではない。(まっしあん)</p> <p>②-1 主張 b 年間目標についてたくさん話し合って決まったっちゃ決まったという感じ。大江プランナーでは「自主性」を年間目標にして「自信・仲良し」を支援することで年間目標を達成しようとしたが支援が年間目標に結び付いたかは疑問。(おーちゃん)</p>
---	--

<p>③-1 主張 c 年間目標としてガチっとはきてない。どんな言葉がしっくりくるか考えたとき、プランナーは子供チャレンジ事業、未来のリーダーを育てると聞いて、積極性、みんなを引っ張っていくというイメージが自主性につながった。(なる)</p> <p>③-1 主張 d 今年「思いやり」という年間目標でステップを踏んで成長していく子どもたちが見れたので結果としては良かったと思う。(ぬっぴー)</p> <p>③-1 主張 e 今年の子供たちを見る限り「思いやり」が合ってた、子どもたち次第だった。もともとはリーダーを育成する事業なのでそこから考えてリーダーに必要なことを年間目標にする。一貫した支援をするための年間目標、年間目標が話し合いの決め手になることがある、年間目標に縛られている部分がある。(ガンディー)</p> <p>③-1 主張 f 4 年生になって「おっ！」と感じたのは学習指導要領にある「生きる力」「主体的で対話的」をプランナー活動でやってもいいと思った、コミュニケーション能力は会議を通じてできる。年間目標の決め方はチャレンジ事業という方針に沿ったり、見たい姿として考えたり、家庭のニーズを考えたり、活動・会議で身につく力から考える等色々な角度から考えたが見つからなかった。(まっしあん)</p> <p>③-1 まとめ いろいろな角度から 1 年間の軸となる年間目標を考えることが大切</p> <p>③-2 現状 a 年間目標を忘れつつあった、プランナーの実状を見て次の目的を決めていて年間目標を思い出して軌道修正していた。(ぬっぴー)</p>	<p>③-2 主張 a 実際の子供たちを見て、目的を立てようとしているが決め手となる年間目標は子どもたちを見て決めたわけではない、年間目標の必要性は分かるが本当に決め手にしていいのか(りこ)</p> <p>③-2 現状 b 3 回の活動をして振り返っていく中で年間目標が達成できていたり、子どもたちに合っていないと感じたりした場合変えてもいいのではないかという意見が出ていたが年間目標は変えず、その中で特に重要視する部分が変わった。(ぬっぴー)</p> <p>③-2 主張 b 年間目標を見直すことは何度もあった、年間目標という決め手がなければどんな支援もやってしまいプランナーにどういう力を身につけてほしいのかもなくなってしまう、最初のうちはプランナーを見ない状態で進めていってもいいがプランナーを見てその子たちに合った目標に軌道修正をかけた方がいい。(なる)</p> <p>③-2 主張 c プランナーの支援は 1 回で効果が出ることは少なく、継続して支援していく必要がある、その軸を据えるためにも年間目標は必要、ただプランナーを見ていない状態で決めるのも違うと思うから時間があれば変えてもいい(まっしあん)</p> <p>③-2 まとめ 年間目標は必要、時折年間目標を見返すことでプランナーの現状に合った年間目標に変えていく。</p>
--	--

<p>議題①〈プランナーと学生の距離について〉</p> <p>現状①単発を一年間経験していたため、そのテンションで子どもたちと接するのは違うかなと思い、心がけてはいた。しかし、結果として近い距離間になった。(たむたむ)</p> <p>現状①大江の子たちと東部の子たちでは距離の取り方が異なった。大江の子たちの方が友達に近く、東部の子たちの方が先生に近かった。(シベリア)</p> <p>主張①プランナーの子たちの性格等でも接し方が変わってくるかも。大江と東部で違いがあったのは、プランナーの学年の差もあるかもしれない。(シベリア)</p> <p>現状①単発・ホールみたいにお姉さんではいけない。(miwa)</p> <p>主張①やっぱり指導しなくてはならない立場にいるから、仲良くなりすぎると説得力がなくなる。(miwa)</p> <p>・体験談・実習先で、生徒との距離感に悩んだ結果として仲良くなったことで、予習、復習ちゃんとしてきてくれた。</p> <p>主張①仲良くなるメリットは多い(miwa)</p> <p>例示①合宿とかで公民館の先生が前で話すときは雰囲気かわるよね。(シベリア) →なんでだろう？なにが違うんだろう？</p>	<p>主張①キャンプに行くときは、結構注意したり叱ったりすることが多い。加減がすごく難しい。 「仲良くなる」を軸に置きすぎると、なめられて子どもたちは言うことをなかなか聞いてくれなくなる。 もしも、指導しないといけなような場面ではしっかり叱ることが大事。いうときはいうんだよという姿勢を示すこと！(りばてい)</p> <p>例示①全フレでは、初めからおんぶや抱っこといったコミュニケーションは禁止となっていた。(あんず)</p> <p>主張①おんぶや抱っこといったコミュニケーションが必ずしも”だめ”なものではないかも。緊張をほぐしたり、楽しくおしゃべりしたり・・・プランナー活動の中での子どもたちにとって居場所の一つだと思う。ただ、危険な時だけは禁止して、メリハリをつけるべき(シベリア)</p> <p>主張①つきはなす勇気も大事(miwa)</p> <p>主張①みんなから好かれる先生ってメリハリがある人だった。(シベリア)</p> <p>主張①理不尽なことで怒らずに、怒られても仕方ないな自分が悪かったと納得できるような時に叱ってくれる先生は好かれてた(miwa)</p> <p>主張①叱った後の対応も大事だと先輩から教わった。 引きずらず、その場で完結させる(りばてい)</p>
---	--

結論①しかるべき時にしかる。

その必要性がないと思われるときは、仲を深めていていいのではないだろうか。

議題②メイフレネームってなんであるんだろう？

→プランナーをしていく中で子どもたちに本名を聞かれたことがあった。教えていいのかよくわからなかった(あんず)

主張②子どもとの距離があるというのが問題になったときにニックネームをつけたところ距離が縮まったというのを聞いて、それがメイフレネームの始まりかなと思った(miwa)

主張②本名を知りたい！っていうのは仲良くなった証拠だと思う。「誕生日いつ？」と似たようなものじゃないかな？(シベリア)

主張②そういうことを踏まえると、ただつけるのではなく呼びやすい名前を付けるべき！(りばてい)

主張②メイフレ全体でなんでメイフレネームを付けるのかを共有してみるのもいいかも(miwa)

結論②メイフレネームは子どもとの距離を縮めるためのもの！そのことを踏まえた、名づけが重要。

第二部 (10) 班 テーマ 「ホール特有の問題について」

メンバー (ナイヤ・よしの・モルモ・Ms,みん・おじゃる・真芽ちゃん)

<p>議題①「特別な支援が必要な子に関して」どう対処していくか…</p> <p>主張①・一概に、～な子が特別支援を要すると言い切ることは出来ない。(ナイヤ)</p> <p>主張①・学生が言ったことをただ理解できない子(よしの)</p> <p>例示①・ADHDの子(集中力が続かない、多動性、衝動性)・・・など様々</p> <p>＜結果どうするか?＞</p> <p>主張①その子たちが、何がどういうふうに苦手なのかをわかって接することが大切。(ナイヤ)</p> <p>＜施設の人に対して＞</p> <p>主張②・施設からの付き添いの方が介入し過ぎてしまうことがある。(よしの)</p> <p>主張②・施設の子も他の子と何ら変わらない。私たちが言ったこともちゃんと理解できるし、一緒に活動できるし、みんなで楽しむことも出来る。(Ms,みん)</p> <p>＜結果どうするか?＞</p> <p>主張②施設の先生や保護者の方には、活動の説明をしておくのと良いのではないかな。(Ms,みん)</p> <p>＜言葉が聞き取りづらい子に対してどう接するか＞</p> <p>疑問③・一生懸命話してくれるがなかなか言葉が聞き取れない。中途半端に返事してよいのだろうか。(真芽)</p> <p>＜結果どうするか?＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兎に角、一生懸命話を聞いてあげる。(よしの) ・諦めない(ナイヤ) <p>主張④・入りたいって言ったら入らせる(真芽)</p> <p>主張④・入らないのが落ち着くのであればそれでよい。(おじゃる)</p> <p>主張④・普段やらないことには食いつきがいい。(ナイヤ)</p> <p>主張④・子どもがやりたいことが学生のやりたいことではない。(ナイヤ)</p> <p>主張④・企画段階で考える。(よしの)</p>	<p>主張③・兎に角、一生懸命話を聞いてあげる。(よしの)</p> <p>主張③・諦めない(ナイヤ)</p> <p>主張③・片手間感?忙しいんだよ感を出さない。(ナイヤ)</p> <p>主張③・可能な時は選択式で示す。(Ms,みん)</p> <p>主張③・二人の空間をつくる。(ナイヤ)</p> <p>主張③・じっくりと時間をかけて。(ナイヤ)</p> <p>＜自分が話しかけられていることに気付かない子＞</p> <p>＜どうするか?・意見＞</p> <p>主張③・その子にポンポンと手で触って、ちゃんと君に話してるんだよ!ってことを示してあげる。</p> <p>＜育成クラブの子たちに対して＞</p> <p>＜現状＞中には来たくない子もいる。</p> <p>＜どうするか?＞</p> <p>主張④・他の子を見て「楽しそう!」と思える環境づくり(Ms,みん)</p> <p>主張④・私たちの方針はその子たちの居場所づくりだから「無理に活動に入れる」というわけじゃない。(よしの)</p> <p>主張④・あの空間にいただけでも進歩だって子もいる。</p> <p>主張④・誰かがそばにいてあげる(モルモ)</p>
---	---

合同分科会の事後アンケート結果

〈第一部〉印象に残ったエピソード、またそれを聞いてどう感じたか。

- 「メイフレでやったことが全て活かせるわけではない、その時々の関係・環境によって工夫しなければならない」という話を聞いて、意外に思い、ハッとした。
- 「メイフレは学生と子どもとの関係を学べる場であるだけでなく、学生同士の関係からもいろいろと学べる」という話を聞いて、自分にはない概念で新鮮であると感じた。
- 「消極的だった子がプランナーという役割を持ったことで、積極的になった」というエピソードから、自分の見ている姿が、その子どものそのままの姿ではなく時と場合によって見せる子どもの姿は異なるとわかり、子どものいろんな面をもっと見てみようと思った。
- 「自分が楽しくないことは、みんなも、子どもも楽しめない」という話を聞いて、激しく同意した。
- 「やりがいがあるが学年・立場の変化に伴って変わった」という話から、自分もそうであると感じ、やりがいはそれぞれ違ってよいが、みんなのやりがいをなるべく尊重できるサークルであって欲しいと思った。
- メイフレにいて「子どものことを常に考える」姿勢が身に付くという話の中で、学生がやりやすいとか効率はどうかとか考えるより、子どもはどうか、どのような気持ちになるか想像するのは大切だと感じた。
- 「良い所だけではなく、悪い所の子どもの姿を近くで見ることが出来たり、子どもの姿を予想して支援を考えるが、実際は予想とは違う行動の子どももいたりなど、様々な姿を見て自分の経験値が上がっていくのがやりがい」という話から教育実習や教師になってから授業を行う時、生徒の言動をより豊かに予想できるようになったり、予想とは違う反応をされても焦らず対応できるよう力が育まれるメイフレって素晴らしいと感じた。
- 「メイフレで学んだことを実習等で生かせるかどうかは自分次第、役立つかどうかではなく役立たせる」という4年生の話の中で、メイフレで学んだ多くのことを次に繋げて生かせるよう自ら意識して行動しようと思った。
- 「自分たちが試行錯誤した結果の反応がダイレクトに返ってくる、叱った後にフォロー出来ないならば叱らない方がいい」という話を聞いて、考えたことがどう作用するのか、その結果どうなったのかということが分かりやすく結果として見える大事な機会なので、いろいろ挑戦してやってみるべきだと思った。叱った後になぜ叱っているのか、切り替えが上手くできないと意図がしっかりと伝わらないので気を付けようと思った。
- やりがい、ポリシーの中でも子どもの笑顔を見ることがやりがいに繋がっているという意見を聞いて、自分自身も子どもの笑顔を見ることが活動を作ってきて良かったなと思える瞬間なのでやりがいを子どもの笑顔と答える人がこんなにもいる、子ども想いのメイフレにはいてよかったと思った。
- パシュートのたとえ話など分かりやすくよかった。活動や子どもについて思うことや学生同士のコミュニケーションなど「自分のメイフレについて」から様々に広がりを見せて、話全体がためになるものだった。メイフレについて考えているにはいるが、ずっとメイフレにいて分かったことや考え方の変化などがあると思った。「自分のメイフレについて」はメイフレにいて限りずっと考えていくことだと感じた。

- ・「支援がうまくいった時というより成長が感じられた時にやりがいを感じる」という話を聞いて、子どもを中心に考えていくことがとても大切だと学んだ。
- ・パシュート理論の話聞いて、2年生が頑張るべきだという今の風潮から脱却し、各学年がそれぞれの位置を大切に、頑張っていくべきだと思った。
※『パシュート理論』…先頭（2年生）は風を受けて大変。だからこそ真ん中（3年）が大切になり、うしろ（1・4年）もできる限りの手助けをしつつついていけば良いという考え方。
学年ではなく、先頭（班長をはじめとする三役）真ん中（班員）最後尾（あまり来ないような、これない人）と考える人もいます。
- ・メイフレとして子どもと関わることができることの素晴らしさ、ありがたさを再認識した。
- ・（メイフレに入ってから、気づいたら様々なことを得ていた、というエピソードに対して）「気づいたら」という部分がリアルだと感じた。時がたってから気づくものなのだと私も思った。
- ・先輩にも、もっと喰いつく勇気をもつべきだというエピソードが印象に残った。

〈第二部〉印象にのこったエピソード

（目的について）

- ・目的とは軸になるものであり、抽象的にしすぎても振り返ったときにブレてしまう恐れがあるので、過程をしっかりと共有して念頭に置くことが大事。またそのために、分かりやすいキーワードを入れるといった工夫も必要だと感じた。
- ・目的は抽象的なものと具体的なもののどちらが良いかという疑問に対して、抽象的なものを目的として掲げて、具体的なものを道標としたらいいという話が印象に残った。
- ・目的は必要か、見たい姿がかっちり決まっていたらそれで OK なのでは？と考えたことがあったのですが、他にも同じように思っていた人もいて、共感でき良かった。
- ・他班の人・同じ班の人の話が聞けた。普段思っているけど言ってなかったという人も多いので、こういう機会は大事だと実感した。
- ・毎年目的について話し合うことに意味があるのかとずっと疑問に思っていたけど、皆が目的についてどう思っているのか、感じているのかを改めて知ることが出来たし、経験を積むにつれ見方も変わるので、毎年話し合うことに意味があるのだと感じた。
- ・理想としてある目的の決め方について聞けた。活動にもよるといふ話やそれぞれの班でのメリット・デメリット、班による決め方の違いなど一つについて知ることが出来た。普段から目的決めは活動から決めるのか、否かということ話し合うのもいいと思った。
- ・私たちが見たいからという理由で目的を立てるのではなく、子どもの人生にとって大切な力だから、今後子どもにどうなって欲しいという支援で目的を立てる大切さを学んで、とても勉強になった。

（話し合いの形式について）

- ・話し合い中に「どう思う？」と聞いてもらえたり、「いいと思う」と認めてもらえたりすると嬉しいし、話し合いに参加しやすくなった。
- ・話し合いに参加をすることで理解が深まるので、理解が必要であると考えられる「見たい姿・目的」については、三役が提示してまとめるのではなく、班員全員でしっかりと話し合う場を設けるべきである。

- ・3役と班員の壁を壊して皆が本当の意味で参加できる、有意義なものにしたい。付箋を使ったり、司会を交代したりなど皆が役割を持って意見が言いやすい話し合いにしていきたい。話し合い改革をしていくべきだと思った。

（単発特有の問題について）

- ・単発において目的がどう作用するのか、目的の意味を単発目線で再認識できた。導入においても色んな新しい意見が聞けた。
- ・三役とその他の班員の関係性などについて話すことが出来た。パシュート理論がしっくりきた。

（プランナー特有の問題について）

- ・プランナーとの距離について色々な意見を聞いて、なるほどと思うことが多く、大変勉強になった。色々な取り組み方があり、また、自分の取り組み方も間違っていないとすることが出来た。
- ・年間目標を頑なに守る必要があるのかという疑問について意見が聞けて良かった。

（ホール特有の問題について）

- ・育成の子どもで、活動に来たくない子にどう対応していくか、という話が印象深かった。無理に入れないで、しっかりとそのような子どもたちにも居場所を作っていくことが大切。

（他に話したいこと）

- ・「話す時間」「発表する時間」「班長が話す時間」など、くっきり分かれているのではなく、誰かが話しているときに何か思ったり考えたりしたら、その時にすぐ発信できるような雰囲気にするにはどうしたらいいだろうか。

〈学年別アンケート〉

- 1年生 分科会を経験してみてどうだったか、来年どんな分科会にしたいか。
- 2年生 来年三年生としてどんなメイフレを作っていきたいか、またどのように関わっていきたいか。
- 3・4年生 自分たちの代で行ってきて良かったこと、改善したかったところ、次の学年に繋げられる経験等。

～3・4年生～

- ・第一部の議題について、「自分にとってのメイフレ」は話を深めるのが少し難しいと感じた。それぞれの経験などが聞けて楽しくはあったが、「考え方を広げる」ことにはあまり繋がらないのではないかと思った。

（分科会より→深められるような質問があった際は発表者に戻す、司会が積極的に質問を投げかけて全体に広げるなど決めていたのですが、もっと工夫できる点があったのか考えて次へ生かします）

- ・振り返りで子どもの目線に立てる人が増えたと思う。
- ・公民館の先生や、メイフレを支えてくださっている方への感謝を忘れず、そういう存在を大切に続けていってほしい。
- ・行ってきてよかったこと…深入りをしないこと。人が変わることを求めないこと。

改善したかった所…もっと周りに相談すればよかった

繋げられる経験…仲間内で仲間の悪口を言って、良いことは一つもない！！

- 学校ではあまり活躍できていない子どもなどもメイフレで沢山支援したことで、それぞれの良さを発揮できる姿を見て、やりがいを感じたし、これから子ども達にとって生きる力になると思うから、子どもの視点にしっかり立って考えることはとても良かったと思う。
- しっかりと下の代に伝えるまでがメイフレなので、それができていたのは良かった。
- プランナー特有の問題にはプランナー数名と、プランナー経験者数名混ぜたりして視野を広げる機会を作ってもいいのではないかな。

～2年生～

- 三役経験者だからこそ分かることや思うことが多くあったため、三役でない班員にもメイフレの良い所・悪い所・課題が伝わるような、全員が真剣にメイフレに向き合うメイフレにしたい。
- 皆の居場所になるようなメイフレになればと思う。個性的だけど温かくて優しい人たちがばかりなので、自分の班が好き！メイフレ全体も楽しくて好きだなあと多くの人が思える場になったらいいと思う。次は3年生なので、引きすぎず、入りすぎずラインを考えつつ積極的に参加したい。
- 自分の経験（とくに失敗談）を後輩に伝える。新しいこと・アイディアをだして、今までやったことのないことに挑戦する。
- メイフレは堅苦しいものではなく、楽しいと思えるようにしたい。

～1年生～

- 1年生は聞くだけっていうのも…と思ったので、「これまでの活動を踏まえて」というより、新鮮な意見を出せる議題が良いかな、と思った。
- 来年も他班と班の違いが出るような議題だと勉強になるなと思った。
- 司会が難しかった。途中で煮詰まった時にどうすればいいか分からなかった。来年に活かして楽しい分科会にしたい。
- 先輩方は「何でもできて、しっかり助けてくれる偉大な人」だと思っていたが、自分たちと同じような悩みを乗り越えてきたことを知って親しみやすくなった。